

講師紹介



馬場 隆之 (ばば・たかゆき)
千葉大学大学院医学研究院眼科学 教授

1997年 東京医科歯科大学医学部卒業、同眼科入局。1999年 都立広尾病院勤務。2003年 東京医科歯科大学眼科助教。2007年 米国ジョンホプキンス大学留学。2010年 千葉大学眼科助教。2012年 同講師、2017年 同准教授。2022年より現職。日本眼科学会（眼科専門医・指導医）、日本眼循環学会（理事）、日本網膜硝子体学会、日本近視学会などに所属。

メッセージ：人間は情報の8割以上を目から取り入れているといわれます。年齢とともに目に関する病気の頻度は増えていきます。健康寿命を長く保つために、良い見え方を維持することは大切です。高齢者に多い目の病気について、解説させていただきます。



鈴木 崇根 (すずき・たかね)
千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学 准教授

1999年千葉大学医学部卒業。2001年千葉大学整形外科学講座入局。県内の関連病院で整形外科研修。2006年千葉大学整形外科学研究生（手外科専攻）。2008年整形外科専門医取得。同年、環境生命医学助教となる。国内では、外科医が自己研鑽の為に解剖することができない事実には驚き、2010年に医師が自由にご遺体から学ぶ事ができる施設、クリニカルアナトミーラボ（CAL）を千葉大学に設立。18年より同講師、24年より現職。日本整形外科学会（専門医）、日本手外科学会、日本解剖学会などに所属。千葉手・肘の外科研究会世話人、CST研究会世話人。

メッセージ：人体解剖は、医師への登竜門と言われる医学部の解剖実習、そして卒後教育としての手術手技修練に欠かせません。良医になるために学生・外科医が寸暇を惜しんでご遺体で勉強しています。近年、献体登録をしてくださる方が減少しており、10年後の医学教育がピンチです。献体の集いで、少しでも献体制度について知って頂きたいと考えています。



成田 都 (なりた・みやこ)
千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学 助教

2004年弘前大学医学部医学科卒業、2006年千葉大学整形外科学講座入局。県内の関連病院で整形外科研修。2008年整形外科専門医取得。2013年千葉大学大学院医学研究院医学薬学府博士課程修了。2013年-2018年マギル大学アランエドワード痛みセンター博士研究員及び客員教授（カナダ）。2019年千葉大学大学院医学研究院環境生命医学講座助教、現在に至る。日本整形外科学会（専門医）、日本骨粗鬆症学会（評議員）、日本解剖学会などに所属。

メッセージ：献体につきご理解を深めていただくため、本日は献体の実際につきまして、具体的に献体登録、献体、御遺骨返還までの流れについてご説明させていただきます。